

コース	年次	必修選択の別	科目名	単位数	授業科目時間	講師	実務教員授業
マーケティング・サイエンス	2	必修	マーケティング戦略	2	30	谷口 幸広	○
マーケティング・サイエンス	2	必修	経営戦略	2	30	谷口 幸広	○
マーケティング・サイエンス	2	必修	ビジネスマナーⅢ	2	30	丸山 直美	
マーケティング・サイエンス	2	必修	ビジネスマナーⅣ	2	30	丸山 直美	
マーケティング・サイエンス	2	必修	プレゼンテーションⅢ	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	2	必修	プレゼンテーションⅣ	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	2	必修	外国語Ⅲ	2	30	清水 卓子	
マーケティング・サイエンス	2	必修	外国語Ⅳ	2	30	清水 卓子	
マーケティング・サイエンス	2	必修	外国語演習Ⅲ	2	30	川出 深雪	
マーケティング・サイエンス	2	必修	外国語演習Ⅳ	2	30	川出 深雪	
マーケティング・サイエンス	2	必修	卒業演習Ⅰ	2	30	吉田 和正	○
マーケティング・サイエンス	2	必修	卒業演習Ⅱ	2	30	吉田 和正	○
マーケティング・サイエンス	2	必修	卒業演習Ⅲ	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	ホスピタリティ経営Ⅰ	2	30	丸山 直美	
マーケティング・サイエンス	2	選択	情報処理Ⅲ	2	30	滝口 直樹	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	情報処理Ⅳ	2	30	滝口 直樹	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	統計学Ⅰ	2	30	加藤 淳	
マーケティング・サイエンス	2	選択	統計学Ⅱ	2	30	加藤 淳	
マーケティング・サイエンス	2	選択	組織論Ⅰ	2	30	森内 尚博	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	組織論Ⅱ	2	30	森内 尚博	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	消費者行動論	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	時事研究Ⅲ	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	時事研究Ⅳ	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	接遇外国語Ⅰ	2	30	清水 卓子	
マーケティング・サイエンス	2	選択	接遇外国語Ⅱ	2	30	清水 卓子	
マーケティング・サイエンス	2	選択	メディアリテラシーⅠ	2	30	滝口 直樹	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	メディアリテラシーⅡ	2	30	滝口 直樹	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	特別演習Ⅲ	2	30	佐藤 豪	○
マーケティング・サイエンス	2	選択	特別演習Ⅳ	2	30	佐藤 豪	○
専門必修科目合計				26	390		
専門選択科目合計				32	480		
合計				58	870		

年度	2024	学期	前期
科目名	マーケティング戦略	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	谷口 幸広		

#### 講義概要

昨年度の「マーケティング」を習得したことを前提に、企業が目的を実現するため必要となる「マーケティング戦略」を学ぶ。ビジネスパーソンとして、経営者による経営戦略から「どのような指針・土台をもとにマーケティングを展開していくか？」をビジネスフレームワークを用いて理解を深める。

#### 達成目標

(1) 用語や定義：経営・マーケティング戦略の用語や定義に慣れる。(2) フレームワーク：ビジネスフレームワークの「使いどころ」を把握し、実践に使えるよう理解を進める。

#### 学修成果

(1) ビジネスにおいてマーケティング＝「部分」理解から、「経営」＝全体・繋がりでの理解が促進 (2) スピードが求められるビジネスシーンでの意思決定・行動の最適化ができる。

#### 事前学習

必要な時間：13回×10分／日々のニュース（ビジネス・社会）の確認

#### 事後学習

必要な時間：13回×30分／共有される講義資料PPTの内容確認

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	ガイダンス：(1) 講師自己紹介 (2) 前提条件の共有 (3) 基礎用語の確認
第2回	(1) 復習 (2) 基礎用語の確認 (3) ビジネス成立の要件 (4) マーケティングの必要性／演習
第3回	(1) 復習 (2) 基礎用語の確認 (3) マーケティングの必要性とその背景・原因／演習
第4回	(1) 復習 (2) 戦略とは (3) 戦術とは (4) マーケティング戦略とは／演習
第5回	(1) 復習 (2) マーケティング演習および発表
第6回	(1) 復習 (2) ビジネスキャンバスモデル説明／演習
第7回	(1) 復習 (2) 興味関心ある企業のビジネスモデルキャンバス」の作成演習と発表①
第8回	(1) 復習 (2) 興味関心ある企業のビジネスモデルキャンバス」の作成演習と発表②
第9回	(1) 復習 (2) 競合他社のビジネスモデルキャンバス作成／演習
第10回	(1) 復習 (2) マーケティング・マーケティング戦略視点での企業研究①／演習
第11回	(1) 復習 (2) 組織体制とマーケティング機能／演習
第12回	(1) 復習 (2) マーケティング・マーケティング戦略視点での企業研究②／演習
第13回	(1) 復習 (2) マーケティング・マーケティング戦略での企業研究をふまえた志望動機作成／演習
第14回	第1回～第13回講義の振り返りと要点の確認
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	経営戦略	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	谷口 幸広		

#### 講義概要

マイケル・E・ポーター氏が提唱している「競争戦略」の基礎を学ぶ。現実のビジネスは競争状態が当然であり、卓越した業績を継続して出し続けなければ生き残れない。その為に必要なのは「業界構造の理解」と「競争優位になるための差別化・独自性の確立」となる。当該講義では「5つの競争要因」を中心に講義・演習を行う。

#### 達成目標

(1)「業界構造」を「5つの競争要因」を通じて理解する。(2)「競争優位」を生み出すストーリー（流れ）を作れるようになる。(3)興味関心ある企業・就職希望企業が属する業界構造を分析する。

#### 学修成果

(1)短期：就職活動における「業界分析の理解深度」が促進される。(2)長期：勤務先企業において担当職務が経営戦略にどう関わるか全体像が掴め、職務遂行の質があがる。(3)経営戦略に参画した場合、長期的利益確保を検討する一助となる。

#### 事前学習

必要な時間：13回×10分／日々のニュース（ビジネス・社会）の確認

#### 事後学習

必要な時間：13回×30分／共有される講義資料PPTの内容確認

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	(1)前期復習 (2)競争戦略論の概要 (3)5つの競争要因説明／演習（個人）
第2回	(1)復習 (2)「競争」とは何か／演習（個人・グループ） (3)復習：「戦略・戦術」
第3回	(1)復習 (2)「5つの競争要因」①（自社・競合他社／業界内の競争）／演習（個人・グループ）
第4回	(1)復習 (2)「5つの競争要因」②（買い手との交渉力）／演習（個人・グループ）
第5回	(1)復習 (2)「5つの競争要因」③（売り手との交渉力）／演習（個人・グループ）
第6回	(1)復習 (2)「5つの競争要因」④（新規参入の脅威）／演習（個人・グループ）
第7回	(1)復習 (2)「5つの競争要因」⑤（代替品の脅威）／演習（個人・グループ）
第8回	(1)復習 (2)「5つの競争要因」⑥各要因同士の繋がり（ストーリー）を検証
第9回	(1)復習 (2)「価値提案」を変更しての5つの競争要因の変化①／演習（個人）
第10回	(1)復習 (2)「価値提案」を変更しての5つの競争要因の変化②／演習（グループ）
第11回	(1)復習 (2)「3つの基本戦略」概要 (3)コストリーダーシップ戦略／演習（個人・グループ）
第12回	(1)復習 (2)「3つの基本戦略」：差別化戦略／演習（個人・グループ）
第13回	(1)復習 (2)「3つの基本戦略」：集中戦略／演習（個人・グループ）
第14回	第1回～第13回講義の振り返りと要点の確認
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	グローバル・タスクフォース
タイトル	ポーター教授の「競争の戦略」入門
出版社	総合法令

年度	2024	学期	前期
科目名	ビジネスマナーⅢ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	丸山 直美		

#### 講義概要

ビジネスマナーを1年間学び基本理解の上で、さらに社会人として実践的に必要な知識を学ぶ。ビジネスメールや文書の特性を理解。電話・来客対応、訪問先での名刺交換、会話など社会に出て臨機応変に対応できる知識を得る。また日本の慣例や一般常識を学び相手との会話がスムーズにできるようになる。

#### 達成目標

就職活動で身だしなみや立ち居振る舞いが、社会人になるということをしっかり自覚・認識し求められる社会人の基礎の理解、実行、実践ができる。社会人常識マナー検定3級取得を目指す。

#### 学修成果

1年次で学んだ基本マナーが身につく、臨機応変な態度が取れるようになる。相手の気持ちを考えながら行動できる。就職活動で企業への電話、メールを自信を持って行える。仕事への意識が高まる。

#### 事前学習

10分間ミニテストを復習し、授業でのミニテストに備える

#### 事後学習

本日の授業に関する問題を Google フォームで解答する

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	前期ガイダンス 前期学習計画と目標確認。自己紹介と2年生に向けて抱負を語る
第2回	働く意識・仕事への取り組み方・ 社会人常識マナー検定3級過去問（体験テスト実施）
第3回	1年次の授業振り返り・身だしなみ、姿勢、お辞儀の再復習 仕事の基本となる8つの意識
第4回	コミュニケーション力を養う。ビジネスに相応しい話し方。常套句。（社外・社内敬語会話ロープレ）
第5回	社内文書・社外文書の基本形 社内文書例題作成 社外文書書き方（挨拶文多種理解）
第6回	訪問面談の電話の仕方、グループ演習と代表者のロープレ（スマホ撮影）面談約束・事前準備
第7回	会社訪問マナー1 受付・面談時の心得、名刺交換、紹介の仕方などグループ演習
第8回	会社訪問マナー2 案内役と訪問役（役職）一連動作の演習表訪問先での雑談から仕事への話の流れを考える
第9回	ビジネスメールの基本 要約の仕方と文章バランス 例題をビジネスメールに作成 面接お礼メール
第10回	語れる力「学校の魅力」「仕事のやりがい」を語る。（スマホ撮影）表情・仕草・姿勢・など確認
第11回	日本の席次とプロトコール 色々なシーンでの席次を理解 来客ご案内（ドア）席の勧め方 来客訪問前の準備
第12回	好感を持たれる話し方：クッション言葉 演習
第13回	雑談力 ビジネス用語の基本 話を引き出す力をつける
第14回	前期総括
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	社会人常識マナー検定3級公式テキスト
出版社	公益社団法人全国経理教育協会

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	ビジネスマナーⅣ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	丸山 直美		

#### 講義概要

2年間のビジネスマナーで得た知識にさらに大人としてのマナーを学ぶ。仕事での接待やコミュニケーションの場では相手の気遣う心を持ち、本物のビジネスマナー身につけることを学ぶ。冠婚葬祭などを想定したロールプレイ演習では所作や、日本料理、西洋料理のマナーを学び、社会に出てからも品のある大人の振る舞いができるようになる。

#### 達成目標

就職活動や社会人として必須のビジネスマナー全般の大人としてマナーが身に付く。冠婚葬祭の礼儀を身につけ大事な日に品位を持った行動ができる。社会人常識マナー検定2・3級程度の知識を身につける。

#### 学修成果

就職活動や社会に出からも「基本的な大人のマナー全般」が身に付いているので、仕事のマナー以外でも慶事弔事の振る舞いや会食マナーが身につけ自信を持てる。

#### 事前学習

本の指定ページを読み不明な箇所をまとめておく

#### 事後学習

本日の授業に関する出題問題を Google フォームで解答する

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	前期学習計画と目標確認 前期学習目標の達成度を確認 後期 目標計画をし発表
第2回	社会人常識マナー検定3級過去問 テスト・解説
第3回	提出書類の意味を知る。社内文書レイアウト・提出の仕方・ビジネス文書の基礎を学ぶ
第4回	ビジネス文書：E-mail、FAXのルールとマナーを学ぶ
第5回	席次：日本の席次・日本のおもてなしを学ぶ プロトコール
第6回	日本の案内状・招待状の特殊な表現の意味を知る お礼状の縦書きマナー
第7回	話し方・伝え方（対面・電話）/質問の仕方など演習
第8回	電話応対基本～応用 復習 ロールプレイ（演習）
第9回	来客応対基本～応用 復習 ロールプレイ（演習）
第10回	ビジネス作法：出張・ホテル・ステーションナリー お酒（接待）
第11回	1）社会人のマナー：食事7則とハラルの理解 西洋料理・日本料理など ワインマナー デザートマナー
第12回	1）社会人のマナー：日本食と服装と慶事マナー 演習
第13回	2）社会人のマナー：洋食と服装と弔事マナー 演習
第14回	後期総括
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	社会人常識マナー検定3級公式テキスト
出版社	公益社団法人全国経理教育協会

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	プレゼンテーションⅢ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

#### 講義概要

今講義においては、プレゼンテーションを学問として捉え、基礎知識理解及びアウトライン作成をいちばんの目的としている。目的や聴き手を意識した内容作成及び論理的な事例に基づくアウトライン作成を学習した上で、プレゼンテーションの心構えを理解し適切な仕組み作りができる学習内容となっている。

#### 達成目標

自己紹介や謝罪、依頼など日常生活における様々な場面において、言葉遣いや構成などを体系的に理解した上で適切に表現できるようにする。また、プレゼンテーションの基礎知識を習得し、簡単な発表ができる。

#### 学修成果

自己紹介や謝罪、依頼など日常生活における様々な場面で適切な表現ができる。目的や聴き手分析をした上で論理的な表現ができる。パワーポイントを活用した資料作成ができる。

#### 事前学習

配布プリントの中から、次の学習項目をしっかりと予習する。

#### 事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	プレゼンテーションをはじめよう（目的と成功の法則）
第2回	プレゼンにおける3P分析①（目的と目標分析）
第3回	プレゼンにおける3P分析②（聴き手分析と多様な価値観）
第4回	プレゼンにおける3P分析③（場所と環境におけるリスク対策）
第5回	シナリオの構築①（三部構成の納得マジック）
第6回	シナリオの構築②（イントロダクションと第一印象）
第7回	シナリオの構築③（ボディにおけるロジックと客観的データの重要性）
第8回	シナリオの構築④（コンクルージョンと想いの構築）
第9回	シナリオの構築⑤（多様なシナリオ演繹法と弁証法）
第10回	シナリオの構築⑥（多様なシナリオ帰納法と論理法）
第11回	デリバリー①（プレゼン流伝わる敬語と抑揚）
第12回	デリバリー②（効果的な3つの用途別ボディランゲージ）
第13回	発表準備（アウトライン作成と表現法振り返り）
第14回	プレゼンテーション発表「発展した地方都市と地方ビジネス」
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	プレゼンテーションⅣ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

#### 講義概要

今講義においては、プレゼン場面で「意図ある表現」ができる構成力を養うことを目的としている。そのため、前半はスピーチ発表を行い、表現力とメッセージの重要性の理解に努める。後半は社内プレゼンをテーマとし、会社側のニーズを踏まえた相手主体の発表内容作成ができる学習内容とする。

#### 達成目標

メッセージを伝えるために必要な表現力（声量・アクセント）や構成的なスピーチができる。ビジネス場面で、相手のニーズに応じたプレゼン（スライド使用・ビジネス用語）ができる。

#### 学修成果

スピーチ学習を通じた表現力向上ができる。ビジネス場面での提案ルール・資料作成法・論理的構成を理解し、会社での提案等ができるようになる。

#### 事前学習

配布プリントの中から、次回の学習項目をしっかりと予習する。

#### 事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	スピーチ表現①声量やアクセント、スピード（映像から比較し表現理解）
第2回	スピーチ表現②表現練習（複数スピーチ映像を真似て適切な表現を理解）
第3回	スピーチ表現③メッセージの重要性（広告やCMを事例に比較理解）
第4回	スピーチ表現④メッセージ作成（複数テーマのメッセージ及び構成作成）
第5回	スピーチ表現⑤発表準備（テーマ選定、メッセージ、構成、表現練習）
第6回	スピーチ表現⑥スピーチコンテスト（発表、採点評価、FB）
第7回	プレゼンテーション①プレゼン復習（概要及び専門用語）
第8回	プレゼンテーション②メディアリサーチ（発表に必要な情報収集方法）
第9回	プレゼンテーション③発表準備（「学校説明」発表をグループ準備）
第10回	シプレゼンテーション④発表「学校説明」（発表、採点、FB）
第11回	プレゼンテーション⑤社内プレゼン概論（通常プレゼン違い）
第12回	プレゼンテーション⑥社内プレゼンスライド（通常プレゼン違い）
第13回	プレゼンテーション⑦発表準備（スライドやセリフ等グループ準備）
第14回	プレゼンテーション⑧発表「セブンイレブンでの新サービス提案」
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	外国語Ⅲ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	清水 卓子		

#### 講義概要

TOEIC L&R テストは日常生活やグローバルビジネスにおける活きた英語の力を測定する、世界共通のテストである。本講義では、TOEIC L&R テストの各パートの出題形式に慣れながら、500 点以上取得に必要な基礎的な語彙や文法項目について学習する。

#### 達成目標

日本の中学校 3 年間で学習すべき、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法について理解をすると共に、TOEIC L&R テストの各パートの出題傾向を理解する。

#### 学修成果

500 点以上取得を目標とし学習する事で、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法を身につける事が出来る。学習した語彙や文法を使用して、英語で簡易なコミュニケーションを取る事が出来る。

#### 事前学習

学習予定の語彙、文法項目、パートについて予習

#### 事後学習

学習した語彙、文法項目、パートについて見直し

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	英語の基本 1
第 2 回	英語の基本 2
第 3 回	英語の基本 3
第 4 回	英語の基本 4
第 5 回	Chapter 1: be 動詞の文／否定文／疑問文
第 6 回	Chapter 2: 一般動詞の文／否定文／疑問文
第 7 回	Chapter 3: 一般動詞（三単現）の文／否定文・疑問文
第 8 回	Chapter 4: 疑問詞を使った be 動詞の疑問文
第 9 回	Chapter 5: 現在進行形の文／否定文・疑問文
第 10 回	Chapter 6: 一般動詞の過去形の文／否定文・疑問文
第 11 回	Chapter 7: be 動詞の過去形の文／否定文・疑問文
第 12 回	復習: Chapter 1 - 2
第 13 回	復習: Chapter 3 - 4
第 14 回	復習: Chapter 5 - 6
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	濱崎潤之輔
タイトル	中学英語からやり直す TOEIC L&R テスト超入門
出版社	アスク

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	外国語Ⅳ	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	清水 卓子		

#### 講義概要

TOEIC L&R テストは日常生活やグローバルビジネスにおける活きた英語の力を測定する、世界共通のテストである。本講義では、TOEIC L&R テストの各パートの出題形式に慣れながら、500 点以上取得に必要な基礎的な語彙や文法項目について学習する。

#### 達成目標

日本の中学校 3 年間で学習すべき、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法について理解をすると共に、TOEIC L&R テストの各パートの出題傾向を理解する。

#### 学修成果

500 点以上取得を目標とし学習する事で、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法を身につける事が出来る。学習した語彙や文法を使用して、英語で簡易なコミュニケーションを取る事が出来る。

#### 事前学習

学習予定の語彙、文法項目、パートについて予習

#### 事後学習

学習した語彙、文法項目、パートについて見直し

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	Chapter 8 : 過去進行形の文／否定文・疑問文
第 2 回	Chapter 9 : 未来を表す will の文／未来を表す be going to の文
第 3 回	Chapter 10 : 助動詞の can／その他の助動詞
第 4 回	Chapter 11 : to 不定詞の名詞的用法・動名詞／形容詞的用法／副詞的用法／応用パターン
第 5 回	Chapter 12 : There be 構文
第 6 回	Chapter 13 : 原級を使った比較の文／比較級の文／最上級の文
第 7 回	Chapter 14 : 受動態（受け身）の文
第 8 回	Chapter 15 : 完了・結果・経験・継続を表す現在完了形の文／現在完了進行形の文
第 9 回	Chapter 16 : 現在分詞の形容詞的用法／過去分詞の形容詞的用法
第 10 回	Chapter 17 : 関係代名詞の that・who・whom／関係代名詞の which・whose
第 11 回	Chapter 18 : 原形不定詞の文
第 12 回	Chapter 19 : 仮定法過去の文
第 13 回	Quarter 模試・解説
第 14 回	復習 : Chapter 8 - 19
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験 : 70% 小テスト・課題等 : 30%

#### 教科書

著者名	濱崎潤之輔
タイトル	中学英語からやり直す TOEIC L&R テスト超入門
出版社	アスク

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	外国語演習Ⅲ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	川出 深雪		

#### 講義概要

本講義では日本語による情報の受信・思考・発信の力の育成を主目的とした授業を行う。昨今の日本社会で必要とされる日本語力の状況を鑑み、各課で提示されたテーマをもとに、文字・音声など幅広い日本語資料をも提供する。学生は、テキストでテーマに関する基礎知識と日本語表現を獲得後、各種資料の内容を分析・調査・考察し、最終的に自らの考えを発信する。

#### 達成目標

- ①日本語による情報の受信力・論理的思考力・発信力を養成する。
- ②資料の分析・調査・考察能力を育成する。
- ③日本の思想・文化・社会への理解を深める。
- ④日本語表現力・文法力の向上を図る。

#### 学修成果

日本語による各種資料を分析・調査・考察した上で、自らの考えを日本語で発信する力がつく。各種日本語試験においても、資料読解文や聴読解などで、確実に得点を獲得できるようになる。幅広く豊かな日本語表現力および文法力が身につく。

#### 事前学習

講義予習またはタスク作業（30～60分）

#### 事後学習

講義復習または自習用課題（30～60分）

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション 講義目的・進め方、求められる学習姿勢について
第2回	第1課 食べ物・飲み物の歴史（1） 文字資料を読み解く
第3回	第1課 食べ物・飲み物の歴史（2） 音声資料を聞いて理解し、分析する
第4回	第1課 食べ物・飲み物の歴史（3） 各種資料を分析・考察し、自分の考えを発信する
第5回	第2課 田舎に住むか、都会に住むか（1） 文字資料を読み解く
第6回	第2課 田舎に住むか、都会に住むか（2） 音声資料を聞いて理解し、分析する
第7回	第2課 田舎に住むか、都会に住むか（3） 各種資料を分析・考察し、自分の考えを発信する
第8回	第3課 大学生生活の過ごし方（1） 文字資料を読み解く
第9回	第3課 大学生生活の過ごし方（2） 音声資料を聞いて理解し、分析する
第10回	第3課 大学生生活の過ごし方（3） 各種資料を分析・考察し、自分の考えを発信する
第11回	第4課 日本各地の魅力（1） 文字資料を読み解く
第12回	第4課 日本各地の魅力（2） 音声資料を聞いて理解し、分析する
第13回	第4課 日本各地の魅力（3） 各種資料を分析・考察し、自分の考えを発信する
第14回	読解の解法 実用的な文章 ①問題演習 ②解答と解説
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	根本愛子・ボイクマン総子
タイトル	『東京大学教養学部のアカデミック・ジャパニーズ J-PEAK 中級』
出版社	the japan times

#### 参考書

著者名	
タイトル	講義の中で適宜提示
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	外国語演習Ⅳ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	川出 深雪		

#### 講義概要

前期に続き、日本語による情報の受信・思考・発信の力の育成を主目的とした授業を行う。昨今の日本社会で必要とされる日本語力の状況を鑑み、各課で提示されたテーマをもとに、文字・音声など幅広い日本語資料をも提供する。学生は、テキストでテーマに関する基礎知識と日本語表現を獲得後、各種資料の内容を分析・調査・考察し、最終的に自らの考えを発信する。

#### 達成目標

- ①日本語による情報の受信力・論理的思考力・発信力を養成する。
- ②資料の分析・調査・考察能力を育成する。
- ③日本の思想・文化・社会への理解を深める。
- ④日本語表現力・文法力の向上を図る。

#### 学修成果

日本語による各種資料を分析・調査・考察した上で、自らの考えを日本語で発信する力がつく。各種日本語試験においても、資料読解文や聴読解などで、確実に得点を獲得できるようになる。幅広く豊かな日本語表現力および文法力が身につく。

#### 事前学習

講義予習またはタスク作業（30～60分）

#### 事後学習

講義復習または自習用課題（30～60分）

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	第5課 新しい技術の影響（1） 文字資料を読み解く
第2回	第5課 新しい技術の影響（2） 音声資料を聞いて理解し、分析する
第3回	第5課 新しい技術の影響（3） 各種資料を分析・考察し、自分の考えを発信する
第4回	第6課 「やる気」について（1） 文字資料を読み解く
第5回	第6課 「やる気」について（2） 音声資料を聞いて理解し、分析する
第6回	第6課 「やる気」について（3） 各種資料を分析・考察し、自分の考えを発信する
第7回	第7課 図書館の将来（1） 文字資料を読み解く
第8回	第7課 図書館の将来（2） 音声資料を聞いて理解し、分析する
第9回	第7課 図書館の将来（3） 各種資料を分析・考察し、自分の考えを発信する
第10回	第8課 生き物を守ろう（1） 文字資料を読み解く
第11回	第8課 生き物を守ろう（2） 音声資料を聞いて理解し、分析する
第12回	第8課 生き物を守ろう（3） 各種資料を分析・考察し、自分の考えを発信する
第13回	応用演習（1） 日本語による情報をもとに発表する
第14回	応用演習（2） 日本語による情報をもとに発表する
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	根本愛子・ボイクマン総子
タイトル	『東京大学教養学部のアカデミック・ジャパニーズ J-PEAK 中級』
出版社	the japan times

#### 参考書

著者名	
タイトル	講義の中で適宜提示
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	卒業演習 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	吉田 和正		

#### 講義概要

グローバルビジネスとは国際人になること、いままでなら自国内だけでビジネスをやれたがこれからは国を超えてのビジネスが主流になる。海外と日本を比較して商習慣、価値観、法律、文化の違いを学びながら実践を中心に行っていく。様々な企業のビジネス事例に触れていく。

#### 達成目標

まずは日本と海外の文化や習慣を理解しながらビジネスのやりかたを学んでいく。ビジネスマナーやコミュニケーションの違いも研究しながら自らのグローバルビジネスとは何か理解していく。

#### 学修成果

社会生活の中で実践できるようになるような人材を作り上げる。会社に入るとビジネスを成立させるために商習慣や価値観や文化の違いを理解していなければいけないのでレッスンでは実践を多くやっていく。

#### 事前学習

日本と自分の国の文化の違いを日ごろから何が違うか考える

#### 事後学習

常にニュースを見て感じることをレッスンで発表できるようにする。

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	グローバルビジネスとは
第 2 回	グローバルカルチャーとは
第 3 回	グローバルカルチャー 1 実践
第 4 回	グローバルカルチャー 2 実践
第 5 回	グループにてテーマを決めてディスカッション
第 6 回	グローバルビジネスマナーとは
第 7 回	グローバルビジネスマナー 1 実践
第 8 回	グローバルビジネスマナー 2 実践
第 9 回	グローバルビジネスマナー 3 実践
第 10 回	グループにてテーマを決めてディスカッション
第 11 回	言語の問題
第 12 回	言語の問題 1 実践
第 13 回	言語の問題 2 実践
第 14 回	言語の問題 3 実践
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	とくになし
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	卒業演習Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	吉田 和正		

#### 講義概要

グローバルビジネスとは国際人になること、いままでなら自国内だけでビジネスをやれたがこれからは国を超えてのビジネスが主流になる。海外と日本を比較して商習慣、価値観、法律、文化の違いを学びながら実践を中心に行っていく。様々な企業のビジネス事例に触れていく。

#### 達成目標

まずは日本と海外の文化や習慣を理解しながらビジネスのやりかたを学んでいく。ビジネスマナーやコミュニケーションの違いも研究しながら自らのグローバルビジネスとは何か理解していく。

#### 学修成果

社会生活の中で実践できるようになるような人材を作り上げる。会社に入るとビジネスを成立させるために商習慣や価値観や文化の違いを理解していなければいけないのでレッスンでは実践を多くやっていく。

#### 事前学習

日本と自分の国の文化の違いを日ごろから何が違うか考える

#### 事後学習

常にニュースを見て感じることをレッスンで発表できるようにする。

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	グローバル企業とは
第2回	成功例と失敗例
第3回	自由研究 グループにてグローバル企業を研究して発表1
第4回	自由研究 グループにてグローバル企業を研究して発表2
第5回	自由研究 グループにてグローバル企業を研究して発表3
第6回	自分が考えたグローバルビジネスとは
第7回	自分が考えたグローバルビジネスとは1実践
第8回	自分が考えたグローバルビジネスとは2実践
第9回	入りたい会社へ自分をアピール 自国のビジネススタイルを取り入れて プレゼン 実践1
第10回	入りたい会社へ自分をアピール 自国のビジネススタイルを取り入れて プレゼン 実践2
第11回	入りたい会社へ自分をアピール 自国のビジネススタイルを取り入れて プレゼン 実践3
第12回	入りたい会社へ自分をアピール 自国のビジネススタイルを取り入れて プレゼン 実践4
第13回	入りたい会社へ自分をアピール 自国のビジネススタイルを取り入れて プレゼン 実践5
第14回	後期のまとめ
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	とくになし
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	とくになし
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	卒業演習Ⅲ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

#### 講義概要

本講義では、Japan as No.1 と謳われた日本的経営について考察していく。日本的経営方法は現在の日本企業にも踏襲されている部分も多い。本校卒業後、日本企業に就職する学生にとっては、理解しておかなければならないシステム、考え方を解説していく。

#### 達成目標

日本の企業文化を理解するとともに、企業の海外進出のフェーズが理解できるようになること。そして、自国に進出している日系企業について分析できるようになる。

#### 学修成果

本講義を受講することで、日本企業文化が理解でき、自身が日本企業で働く際に対応できる知識が身につくようになる。

#### 事前学習

配布プリントの中から、次回の学習項目をしっかりと予習する。

#### 事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション 日本的経営とは何か。
第2回	日本的経営 1) 人的管理について
第3回	日本的経営 2) 組織の制度と構造
第4回	日本的経営 3) 従業員の意識
第5回	日本的経営 4) 経営戦略
第6回	日本的経営 5) 日本の産業構造について
第7回	中間テスト
第8回	日本企業の海外進出について 1) 戦後の日本経済史（為替を中心）
第9回	日本企業の海外進出 2) 海外進出の段階について
第10回	日本企業の海外進出 3) 海外進出の方法
第11回	日本企業の海外進出 4) 企業の海外戦略
第12回	日本企業の海外進出 ケーススタディ①SONY
第13回	日本企業の海外進出 ケーススタディ②NISSAN
第14回	日本企業の海外進出 ケーススタディ③ヤクルト
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、プリント等を配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	ホスピタリティ経営Ⅰ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	丸山 直美		

#### 講義概要

一般的に、「ホスピタリティ」とは「おもてなし」や「心配り」など、サービスの延長線上にあるもの、もしくはサービスを補充するものとして混同・誤解されている場合が多い。本講義では、ホスピタリティ産業と呼ばれる業界の様々な事例を紹介しながら、サービスとホスピタリティの違いやホスピタリティの基本的な考え方を学ぶ。

#### 達成目標

ホスピタリティの基本的な考え方を理解したうえで、ホスピタリティ産業にはどのような業種業態があるのか、そこで発揮されるべき「ホスピタリティ」はどんなことなのかを学び、普段の生活の中でも発揮できるようにする。

#### 学修成果

日常生活で相手を思いやって行動することができるようになる。また、ホスピタリティ産業に興味を持ち、就職活動等に役立てることができるようになる。

#### 事前学習

配布資料に事前に目を通しておく

#### 事後学習

復習

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	ガイダンス なぜ、「ホスピタリティ」を学ぶのか
第2回	モノ消費からコト消費の時代へ
第3回	サービスとは何か？
第4回	サービス品質の特徴と品質基準
第5回	ホスピタリティの定義とサービスとの関係
第6回	ホスピタリティが生まれやすい企業文化とは？
第7回	現状と今後の課題
第8回	業界・職業研究①（旅行）
第9回	業界・職業研究②（バス・鉄道・航空）
第10回	業界・職業研究③（旅館・ホテル）
第11回	業界・職業研究④（テーマパーク）
第12回	業界・職業研究⑤（飲食・小売）
第13回	業界・職業研究⑥（冠婚葬祭事業）
第14回	テスト対策
第15回	定期試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	情報処理Ⅲ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	滝口 直樹		

#### 講義概要

Microsoft Word の操作を中心に、コンピュータによる文書作成の基礎を学びます。Word の基本操作、日本語による文章入力、ビジネス文書の作成ルールなどを実習による習得します。  
講義内容は MOS Word 試験にも対応し、資格取得への対策も行います。

#### 達成目標

日本語文章入力（10 分間に 400 文字程度）  
Microsoft Word の基本操作（ビジネス現場において不足のない内容を網羅）※希望者は MOS Word を受験・合格  
学修成果

日本語入力の手法を取得し、正確に入力ができる力を得る。  
Word の基本操作を習得し、ビジネス文書やチラシなどの書類を効率的に作成するスキルを得る。

#### 事前学習

前回の操作の復習

#### 事後学習

操作の復習

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	「ガイダンス・コンピュータの基礎」 コンピュータのしくみ、入力方法
第 2 回	「日本語入力」 ローマ字による日本語入力方法
第 3 回	「日本語文章入力」 文節の漢字変換を伴う短文入力方法
第 4 回	「フォントの設定 1」フォント種、サイズ等の設定、文字揃えの設定
第 5 回	「フォントの設定 2」フォントの色、インデント、あいさつ文
第 6 回	「行と段落」 行間の設定、段落設定
第 7 回	「小テスト」 小テストと解説
第 8 回	「テーマ、スタイル」 テーマの変更、スタイルの設定
第 9 回	「リスト」 箇条書きの作成、段落番号の作成
第 10 回	「クリップボード・検索と置換」 コピー・移動、検索、置換
第 11 回	「目次、用紙設定」 目次の追加、用紙・余白等の設定
第 12 回	「表の作成 1」 表の作成、デザイン変更
第 13 回	「表の作成 2」 表のレイアウト設定
第 14 回	「総復習」 これまでの学習の総復習・問題練習
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	情報処理IV	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	滝口 直樹		

#### 講義概要

MOS 検定受験を念頭に、Microsoft Word2016 および Excel2016 の操作を中心に操作を学びます。  
また、試験対策として模擬試験をはじめとする問題演習なども並行して進めます。  
前期に引き続き、日本語入力練習については毎回実施します。

#### 達成目標

日本語文章入力（10 分間に 400 文字程度）  
MOS Word2016 および MOS Excel2016 に対応する操作の習得。

#### 学修成果

Microsoft Word2016 の操作を、MOS 検定一般レベルの基準を満たす範囲で学習します。  
また、Excel2016 の基本操作も習得します。

#### 事前学習

前回の操作の復習

#### 事後学習

操作の復習

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	MOS ガイダンス 試験概要、模擬試験の確認、学習方法
第 2 回	「ヘッダーとフッター」 ヘッダー、フッターの設定、ページ番号
第 3 回	「画像（写真・イラスト）」 画像の挿入・編集
第 4 回	「図形」 図形の追加・編集、テキストボックスの追加
第 5 回	「スマートアート」 スマートアートの挿入、編集
第 6 回	「環境設定」 Word オプション、情報画面、プロパティ
第 7 回	「参考資料」 脚注の挿入、参考文献の扱い
第 8 回	「セキュリティ・保存時の検査」 パスワードの設定、ドキュメント検査
第 9 回	「Excel の基礎」 Excel の画面説明、新規作成・保存方法
第 10 回	「セルの扱い」 セルの基本操作、オートフィルによるコピー
第 11 回	「四則演算」 セル参照による演算、絶対参照・相対参照
第 12 回	「四則演算」 セル参照による演算、複合参照
第 13 回	「表の作成・画面操作」 罫線の設定、塗りつぶし、セルの結合
第 14 回	「テーブル」 テーブルの作成、設定
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	FOM 出版
タイトル	Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集
出版社	FOM 出版

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	統計学 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	加藤 淳		

#### 講義概要

近年、統計学は様々な学問や産業分野において、その統計データの活用を如何に行って分析結果を導き出して、様々な判断を可能にしていくのかという社会的なニーズが高まっている。統計データを的確に処理でき、得られた結果を正確に理解、解釈していくために必要な知識を学ぶ。

#### 達成目標

統計学の基本的考え方となる「客観的」な解釈の基礎となる平均概念を徹底し、そこから偏差や分散、共分散、相関係数などを学習していき、散布図を用いた相関分析を実際に計算しレポート作成まで行えるようになる。

#### 学修成果

身の回りに実際にある統計データを見て、客観的な解釈を平均概念をもとにその相関性の有無や相関のトレンド(正の相関または負の相関)、その相関の強弱に至るまで深く理解出来るようになる。

#### 事前学習

配布プリントの中から、次回の学習項目をしっかりと予習する。30分程度

#### 事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。30分程度

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	講義ガイダンス 統計学の学習と準備について
第2回	統計学とはどういうものなのか、また何故必要になるのか
第3回	さまざまな統計分析の理論的な背景について
第4回	統計分析の理論的な背景から分析法の適用について学ぶ
第5回	データの数量化 主観的データの数量化について
第6回	各統計データへの客観視 平均値についての考え方及び計算方法
第7回	平均値の表記 一般式を $\Sigma$ や $n$ などの文字を用いて表現する
第8回	統計データ 平均値を用いて偏差を求め、平均値からのズレについて学ぶ
第9回	統計データ 分散の考え方と求め方について
第10回	統計データ 標準偏差の考え方と求め方について
第11回	統計データ 共分散の考え方と求め方について
第12回	統計データ 散布図の読み取り方と作成のしかた
第13回	統計データ 相関係数を用いた相関分析の考え方と求め方について
第14回	統計データ 相関分析の考え方と求め方について 相関分析によるレポートの作成方法について
第15回	期末試験：試験実施

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、授業中にプリントを配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	必要に応じて紹介
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	統計学Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	加藤 淳		

講義概要

前期に学習した相関図、相関分析を基本とし、既知データの範囲から未知データの範囲までを考える回帰分析を学習する。回帰分析を行う上で、既知データの信頼度が重要となる為、フェイクデータやサンプル数の不足、偏りのあるデータなどについて、それぞれの判断の仕方、扱い方を深く学ぶ。

達成目標

相関分析と回帰分析との共通性や相違点を深く理解して、それぞれの分析を1つの統計データに対して総合的にを行い、得られた分析結果から考察を行い、レポート作成まで出来るようにする。

学修成果

身の回りにある様々な統計データに対して、多角的視点からの相関分析及び回帰分析を行えるようになる。また分析の結果に対する信頼度に対しての原因を考察出来るようになる。

事前学習

配布プリントの中から、次回の学習項目をしっかりと予習する。30分程度

事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。30分程度

授業計画

回	授業計画
第1回	前期での学習内容の復習と後期の学習の概要について
第2回	単回帰分析 説明変数 と目的変数について
第3回	単回帰分析を行う上での最小2乗法の考え方
第4回	単回帰分析 単回帰直線のグラフ化について
第5回	単回帰分析 既知のデータから未知のデータについて
第6回	単回帰分析の信頼度についての考察 データの偏りについて
第7回	単回帰分析の信頼度についての考察 フェイクデータの有無
第8回	単回帰分析の信頼度についての考察 サンプル数の妥当性など
第9回	相関係数の2乗と決定係数の関係 決定係数の求め方
第10回	単回帰分析による統計データのレポート作成について
第11回	説明変数が1つの時の単回帰分析と、説明変数が複数の時の重回帰分析との使い分け
第12回	2×2クロス集計表を用いた独立性の検定 具体例と計算演習
第13回	m×nクロス集計表を用いた独立性の検定 具体例と計算演習
第14回	区間推定の考え方 平均値・不偏分散・標準偏差
第15回	期末試験：試験実施

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	適宜、授業中にプリントを配布
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	必要に応じて紹介
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	組織論 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	森内 尚博		

#### 講義概要

経営組織論の歴史的な変遷を学ぶことで、組織のパフォーマンスを向上させるためのマネジメントの考え方や方法を学ぶことで、ハイパフォーマンス組織を作るために、どのような行動が求められるかを理解し、実践の中で活用可能な知識・スキルを習得する。

#### 達成目標

経営者・管理者の視点で、組織のパフォーマンス向上に向けた先人たちの知恵を体系的に学習することで、組織のリーダーとして活躍するための組織運営に関する基本知識を習得する。

#### 学修成果

経営者・管理者の視点を学習することで、組織の中で活躍するために必要な視点や行動様式等を理解することで、組織の一員として自ら考えて、適格な行動ができるようになる。

#### 事前学習

前回講義の復習（配布資料の見直し）

#### 事後学習

宿題を通してテーマの振り返り

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション、自己紹介、将来の目標
第2回	組織論を学ぶ重要性と前期授業の全体像の説明
第3回	組織の基本的な構造（法人の形態、組織の体制）について学習する
第4回	古典的組織論（テイラー、ファヨール、ウェーバー）について学習する
第5回	新古典的組織論（メイヨ、マグレガー～マズローまで）について学習する
第6回	近代的組織論（バーナード、サイモン、サイアート＝マーチ）について学習する
第7回	適応的組織論（バーンズ＝ストーカー、ウッドワード 等）について学習する
第8回	戦略的組織論（チャンドラー、アンゾフ、ポーター）について学習する
第9回	その他の経営組織形態（京セラのアメーバ経営）について学習する
第10回	社会的組織論（CSR、SDGs への取組み）について学習する
第11回	協働における組織文化の重要性とマネジメントの仕方について学習する
第12回	経営資源としての情報・知識のマネジメントについて学習する
第13回	情報化時代における他組織との組織間ネットワークについて学習する
第14回	前期の総復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	組織論Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	森内 尚博		

講義概要

組織論Ⅰで学習した理論を踏まえて、組織の協働を推進するための具体的・実践的なスキル・テクニックを様々なケース事例（経営者や企業）を通して学習すると共に、組織の一員として、周囲から評価される人材になるための心構え、習慣を身に付ける。

達成目標

様々なケース（論文、書籍等）を通して、対人スキルやセルフマネジメント方法を学習することで、周囲から評価される人材となり、ビジネスシーンで活躍するための基礎を身に付ける。

学修成果

経営者・管理者の視点を学習することで、組織の中で活躍するために必要な視点や行動様式等を理解することで、組織の一員として自ら考えて、適格な行動ができるようになる。

事前学習

前回講義の復習（配布資料の見直し）

事後学習

宿題を通してテーマの振り返り

授業計画

回	授業計画
第1回	後期講義のオリエンテーション（講義内容の全体像の説明）
第2回	環境の変化に対応したイノベーションを産む組織作りについて学習する
第3回	組織変革の必要性と組織変革に向けたプロセスについて学習する
第4回	HBRの論文（コッターの組織変革のキーワード）を元に、組織のイノベーションの推進ポイントを学習する
第5回	HBRの論文（良い仕事とは？）を元に、組織の中で求められる仕事とは何かを学習する
第6回	HBRの論文（健全な関係作り）を元に、組織の一員として周囲との関係作りについて学習する
第7回	HBRの論文（若手リーダーの役割）を元に、チームリーダとしての振る舞いを学習する。
第8回	ドラッカーのマネジメントから管理の原則を学習する
第9回	「生きている会社、死んでいる会社」を元に、活性化された組織のポイントを学習する
第10回	先人たちのマネジメント（安藤百福、本田宗一郎等）
第11回	HBR（部下と上司の職務を設計する方法）を元に、業務分担の考え方を学習する
第12回	近江商人の哲学（三方よし）を「たねや」のケースを元に学習する
第13回	HBR（組織変革のためのデジタルマインドセット）を元に、DX時代のビジネススキルについて学習する
第14回	後期授業の総復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	消費者行動論	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

#### 講義概要

経済が時代とともに変化するのと同じように、消費者の心理や行動も変化してきている。本講義では、消費者行動の歴史をもとに、様々なモデルを用いて消費者心理を学んでいく。また、どのように消費者へアプローチしていくか、マーケティング的視点も用いながら理解を深めていく。

#### 達成目標

「消費」とは何か、購買プロセスやライフスタイルの変化が与える影響は何かということを実例を用いながら学び、今後、どのようにしてビジネスに活かしていくことができるかを考えることを目標としていく。

#### 学修成果

消費者の購買行動を中心に学ぶことで、消費者心理を理解できるようになる。そのため、接客業の仕事に就いた際に顧客視点で物事を考えて行動できるようになる。

#### 事前学習

配布プリントの中から、次回の学習項目をしっかりと予習する。

#### 事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	消費者行動論とは①・消費者行動論の歴史
第2回	消費者行動論とは②・ELMモデル
第3回	消費者が行動に至るまでの過程① (AIDMA・AISAS)
第4回	消費者が行動に至るまでの過程② (AISEAS・SIPS・DUALAISEAS)
第5回	ケーススタディ①
第6回	高度経済成長期の消費者行動
第7回	バブル期前後の消費者行動
第8回	平成の消費者行動①
第9回	平成の消費者行動② (コト消費・トキ消費・イミ消費)
第10回	非計画購買と衝動購買
第11回	ケーススタディ②
第12回	ライフサイクルアプローチ・ライフコースアプローチ
第13回	試験前対策①
第14回	試験前対策②
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	時事研究Ⅲ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

#### 講義概要

これからのグローバル社会で活躍するためには、世界の政治・経済・社会問題にしっかりと目を向け、自分たちで解決策を提示して、実行していかなければならない。本講義では、国際的な諸問題の中から最低限身に付けておくべき知識を学び、それらの解決策を自分なりに提示できるようにしていく。

#### 達成目標

国際的な問題の知識を学んだうえで、その中から「問題発見・問題分析・問題解決」を行えるようにしていく。また、課題提案力を身に付け、自分の意見を相手に伝えられるようにする。

#### 学修成果

世界の政治・経済・社会問題を理解することができる。そこから、ビジネスに生かすための知識を身に付け、社会常識として世界のできごとを面接等で話すことができる。

#### 事前学習

前回の授業の復習

#### 事後学習

授業後の再考察

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション・先進国と発展途上国のちがい
第2回	新興国の発展 途上国の発展の様子を考察する
第3回	資本主義と社会主義 世界の経済がどのように動いているかを考える
第4回	人口爆発① 途上国がなぜ人口が増えているかを考察する
第5回	人口爆発② 人口が増加することで起こる問題点と解決策を考える
第6回	食糧問題① 先進国と途上国の食糧問題のちがいを考察する
第7回	食糧問題② フードロスの問題点と解決策を考える
第8回	資源・エネルギー問題① 現在の資源の問題を考える
第9回	資源・エネルギー問題② 新しいエネルギーの活用方法を考える
第10回	世界の環境問題① 地球温暖化の問題点と解決策を考える
第11回	世界の環境問題② 海洋汚染の問題点と解決策を考える
第12回	世界の環境問題③ 酸性雨・オゾンホールの問題点と解決策を考える
第13回	試験前対策① 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する
第14回	試験前対策② 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	時事研究IV	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

#### 講義概要

前期に学んだことを踏まえ、日本と世界を比較した際に、どのような違いがあるのかということ进行考察していく。また、日本がどのように世界と関わりを持ち、どのように发展をしてきたのかを、世界の国・地域との関係性を見ながら学んでいく。モデルケースも用いながら、グローバルな視点で物事を考えられるようにしていく。

#### 達成目標

国際的な問題の知識を学んだうえで、その中から「問題発見・問題分析・問題解決」を行えるようにしていく。また、課題提案力を身に付け、自分の意見を相手に伝えられるようにする。

#### 学修成果

世界の政治・経済・社会問題を理解することができる。そこから、ビジネスに生かすための知識を身に付け、社会常識として世界のできごとを面接等で話すことができる。

#### 事前学習

前回の授業の復習

#### 事後学習

授業後の再考察

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション・日本と世界の関係を多角的視点で捉え考える①
第2回	日本と世界の関係を多角的視点で捉え考える②
第3回	日本と世界の関係を多角的視点で捉え考える③
第4回	世界から見た日本はどのように映るのかを考える①
第5回	世界から見た日本はどのように映るのかを考える②
第6回	世界から見た日本はどのように映るのかを考える③
第7回	(モデルケース) 日本企業が世界に与える働きを考察する①
第8回	(モデルケース) 日本企業が世界に与える働きを考察する②
第9回	日本企業と世界企業を比較し、それぞれのちがいを考察する
第10回	世界が一つになるために、私たちが行うこと
第11回	SDGsとは① SDGsの1~9について考える
第12回	SDGsとは② SDGsの10~17について考える
第13回	試験前対策① 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する
第14回	試験前対策② 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	接遇外国語 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	清水 卓子		

#### 講義概要

TOEIC L&R テストは日常生活やグローバルビジネスにおける活きた英語の力を測定する、世界共通のテストである。本講義では、TOEIC L&R テストの各パートの出題形式に慣れながら、500 点以上取得に必要な基礎的な語彙や文法項目について学習する。

#### 達成目標

日本の中学校 3 年間で学習すべき、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法について理解をすると共に、TOEIC L&R テストの各パートの出題傾向を理解する。

#### 学修成果

500 点以上取得を目標とし学習する事で、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法を身につける事が出来る。学習した語彙や文法を使用して、英語で簡易なコミュニケーションを取る事が出来る。

#### 事前学習

学習予定の語彙、文法項目、パートについて予習

#### 事後学習

学習した語彙、文法項目、パートについて見直し

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	英語の基本 1
第 2 回	英語の基本 2
第 3 回	英語の基本 3
第 4 回	英語の基本 4
第 5 回	Chapter 1: be 動詞の文／否定文／疑問文
第 6 回	Chapter 2: 一般動詞の文／否定文／疑問文
第 7 回	Chapter 3: 一般動詞（三単現）の文／否定文・疑問文
第 8 回	Chapter 4: 疑問詞を使った be 動詞の疑問文
第 9 回	Chapter 5: 現在進行形の文／否定文・疑問文
第 10 回	Chapter 6: 一般動詞の過去形の文／否定文・疑問文
第 11 回	Chapter 7: be 動詞の過去形の文／否定文・疑問文
第 12 回	復習: Chapter 1 - 2
第 13 回	復習: Chapter 3 - 4
第 14 回	復習: Chapter 5 - 6
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	著者名
タイトル	タイトル
出版社	出版社

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	接遇外国語Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	清水 卓子		

#### 講義概要

TOEIC L&R テストは日常生活やグローバルビジネスにおける活きた英語の力を測定する、世界共通のテストである。本講義では、TOEIC L&R テストの各パートの出題形式に慣れながら、500 点以上取得に必要な基礎的な語彙や文法項目について学習する。

#### 達成目標

日本の中学校 3 年間で学習すべき、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法について理解をすると共に、TOEIC L&R テストの各パートの出題傾向を理解する。

#### 学修成果

500 点以上取得を目標とし学習する事で、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法を身につける事が出来る。学習した語彙や文法を使用して、英語で簡易なコミュニケーションを取る事が出来る。

#### 事前学習

学習予定の語彙、文法項目、パートについて予習

#### 事後学習

学習した語彙、文法項目、パートについて見直し

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	Chapter 8 : 過去進行形の文／否定文・疑問文
第 2 回	Chapter 9 : 未来を表す will の文／未来を表す be going to の文
第 3 回	Chapter 10 : 助動詞の can／その他の助動詞
第 4 回	Chapter 11 : to 不定詞の名詞的用法・動名詞／形容詞的用法／副詞的用法／応用パターン
第 5 回	Chapter 12 : There be 構文
第 6 回	Chapter 13 : 原級を使った比較の文／比較級の文／最上級の文
第 7 回	Chapter 14 : 受動態（受け身）の文
第 8 回	Chapter 15 : 完了・結果・経験・継続を表す現在完了形の文／現在完了進行形の文
第 9 回	Chapter 16 : 現在分詞の形容詞的用法／過去分詞の形容詞的用法
第 10 回	Chapter 17 : 関係代名詞の that・who・whom／関係代名詞の which・whose
第 11 回	Chapter 18 : 原形不定詞の文
第 12 回	Chapter 19 : 仮定法過去の文
第 13 回	Quarter 模試・解説
第 14 回	復習 : Chapter 8 - 19
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験 : 70% 小テスト・課題等 : 30%

#### 教科書

著者名	濱崎潤之輔
タイトル	中学英語からやり直す TOEIC L&R テスト超入門
出版社	アスク

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	メディアリテラシー I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	滝口 直樹		

#### 講義概要

情報処理技術者試験「IT パスポート」の内容を中心に、情報セキュリティを学び、その後、資格合格を目指してストラテジ分野の復習を進める。

#### 達成目標

IT パスポート試験合格を目指した学習の中で、ビジネス現場におけるシステムの役割を理解し、システム運用者として必要な知識や振る舞いを習得する。

#### 学修成果

企業活動の基本から情報システム戦略にまたがる IT を活用したビジネスの土台となる知識を得る。  
また、有効なシステムを手に入れるために必要な考え方や手法を理解する。

#### 事前学習

1 年時の学習内容の復習

#### 事後学習

キーワードの暗記

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	「脅威と脆弱性 1」 人的脅威、物理的脅威
第 2 回	「脅威と脆弱性 2」 技術的脅威
第 3 回	「情報セキュリティ対策 1」 人的セキュリティ対策、物理的セキュリティ対策
第 4 回	「情報セキュリティ対策 2」 人技術的セキュリティ対策
第 5 回	「情報セキュリティ対策 3」 暗号化技術、PKI
第 6 回	「企業の仕組み」 経営目標、CSR、PDCA
第 7 回	「経営管理」 BC、HRM、人材育成
第 8 回	「業務分析」 PRET、管理図、レーダーチャート、各種グラフ
第 9 回	「社会における IT の利活用」 AI、DX、スマート社会、第 4 次産業革命
第 10 回	「法務 1」 著作権法、知的財産権関連法、不正競争
第 11 回	「法務 2」 労働関連法規、契約関連法規、IT 関連法規
第 12 回	「事業戦略」 事業戦略、事業戦略策定の流れ
第 13 回	「戦略目標の策定」 戦略目標策定のための情報分析手法
第 14 回	「経営分析手法」 SWOT 分析、PPM、3C 分析
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	滝口 直樹
タイトル	ゼロからはじめる IT パスポートの教科書
出版社	とりのい書房

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	メディアリテラシーⅡ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	滝口 直樹		

#### 講義概要

情報処理技術者試験「ITパスポート」合格を目指して、テクノロジー分野の復習・問題演習を進める。

#### 達成目標

ITパスポート試験合格を目指した学習の中で、ビジネス現場におけるシステムの役割を理解し、システム運用者として必要な知識や振る舞いを習得する。

#### 学修成果

企業活動の基本から情報システム戦略にまたがる IT を活用したビジネスの土台となる知識を得る。  
また、有効なシステムを手に入れるために必要な考え方や手法を理解する。

#### 事前学習

1年時の学習内容の復習

#### 事後学習

キーワードの暗記

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	「コンピュータの基礎」 五大装置（五大機能）、コンピュータの分類
第2回	「メモリ」 RAMとROM、HDD、外部メディア
第3回	「ソフトウェア」 OSの種類と役割、アプリケーションソフトウェア
第4回	「システム」 システム構成、クライアントサーバシステム
第5回	「情報デザイン」 情報デザインの理論、Webデザイン
第6回	「情報メディア」 マルチメディアファイルの形式、操作
第7回	「データベース」 DBMSの役割、データ設計、データ操作
第8回	「小テスト・解説」 コンピュータシステムの小テストおよび解説
第9回	「LANの構成」 LAN構成機器（モデム・ルータ・ハブ等）
第10回	「インターネットのしくみ」 インターネット技術（TCP/IP）
第11回	「人的脅威と対策」 人的脅威、人的セキュリティ対策
第12回	「物理的脅威と対策」 物理的脅威、物理的セキュリティ対策
第13回	「技術的脅威」 技術的脅威、マルウェアやその他の攻撃
第14回	「技術的セキュリティ対策」 マルウェア対策、機器保全対策、暗号化
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	滝口 直樹
タイトル	ゼロから始める ITパスポートの教科書
出版社	とりにい書房

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	特別演習Ⅲ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	佐藤 豪		

#### 講義概要

日系・外資系企業で実践されている基本的な人事マネジメントを理解し、「評価・採用・報酬&福利厚生」のBasicな実態を共有する。極力実態に即した情報提供を基本とする。

#### 達成目標

日系企業で実施されている基本的な人事政策・plan等を理解して頂く。人事論だけではなく、企業そのものの理解も進める

#### 学修成果

2年生の就活時期に志望企業の報酬制度等を理解し「採用試験時に面接」で効果的面談(Q&A)が出来る事が予想される。

#### 事前学習

学生からすると余り普段触れない内容ですので普段から新聞・NETで予備学習

#### 事後学習

各授業で一つでも大切と感じた事項を確認して社会人になった際のプラスとしたい

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	自己紹介後、企業行動全体説明&人事部門の位置付け説明
第2回	企業経営にとって必要な要素とは(人事部の必要性)&理解その為にどの様な準備が必要か検討する
第3回	人事マネジメントの構成内容分析とその枠割を理解すると共に企業のマネジメント方法も考察する
第4回	人事評価方法・評価表のコンテンツを理解する。個々の評価コンテンツの意義を理解して頂く
第5回	会社個人業績目標「MBO」の意義と中身を理解する。グローバル企業で活躍する為にもMBOを身近な指標として理解して頂く
第6回	賃金・労働との関係理解&賃金の中身(企業で賃金を得る楽しみ厳しさも理解して頂く)
第7回	賃金の設定方法・退職金制度の理解を検討する(試算方法を事前知っておくメリットを理解して頂く)
第8回	報酬の内的報酬&外的報酬:働きがいとは何かを理解する(なぜ働くのか!どうして!)
第9回	モチベーションUP方法(目標と報酬)を検討理解する。モチベーション創造が最も大事な事と理解して頂く。
第10回	会社における「順位・レベル順」とはどの様な意味が有るのか?年功序列・職能資格制度とのどの様な制度かを理解する
第11回	調和の思想も取り入れた人事評価制度の理解と検証。職務等級制度と役割級との違いの理解&これまでの授業の求め。
第12回	1~11の講義重要ポイント理解(基礎的人事管理とは)*1~6の講義理解
第13回	1~11の講義重要ポイント理解(基礎的人事管理とは)*7~11の講義理解
第14回	前期試験の重要ポイント理解と対策
第15回	期末試験

評価方法 定期試験:70% 小テスト・課題等:30%

#### 教科書

著者名	坪谷邦生
タイトル	人事マネジメント入門
出版社	デスカバー・タウンテイーワン社

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	特別演習Ⅳ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	佐藤 豪		

#### 講義概要

グローバル企業で成功する為の「タイムマネジメント」の必要性和「コーチングノウハウ」理解を深め次のキャリア（大学進学・社会人）の準備を行う。＊時間は永遠では無く限られた資源である事を認識する事が極めて重要である。

#### 達成目標

これまで学んだ「Leadership/Management」をタイムマネジメント管理にも応用して頂きたい

#### 学修成果

日々の生活はもとより、次のキャリア形成でしっかり生かして頂きたい。今後は世界経済・政治は極めて厳し状況になる事を十分認識して進んで頂きたい

#### 事前学習

時間管理は社会生活に必要な基本ですので事前に大切な要素の確認が大事

#### 事後学習

各講義後、為になった内容を日頃の生活で実行して頂きたい

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	タイムマネジメントの基本的考え方と仕組みを学ぶ
第2回	仕事の無駄探しは時間の無駄！大事な仕事を見つける四つのキーワード
第3回	仕事の進め方の知識とコミュニケーションスキルが仕事のOS！
第4回	私の仕事は何か！気が付けば自分の時間が無い！等悲鳴が聞こえるのは何故か？
第5回	初めての仕事でどの様に行えばよいのか！その対処方法を考える（目標・チームコントロール）
第6回	四つのコミュニケーションの内「聞く・話す」事が重要である（音声情報・文字情報）
第7回	自分の思いを数字に置き換える。現実を変える目標設定法の理解を理解する（夢を実現する目標設定法）
第8回	チームデベロップメントの基本スキルを学習する。（コミュニケーション環境の創造）
第9回	部下が育たないのは優秀な上司のせい？ビジネスマンの欲求はコーチングで叶えられる！
第10回	部下の心が驚く程見えてくる選択理論心理学を共有し「上司と部下」の人間関係を理解する&部下の不満の対処方法
第11回	部下の能力を引き出すには叱責するよりも質問責めが効果的である。褒めて成長させることが大事である
第12回	仕事の醍醐味は理想と現実のギャップを埋める事である。
第13回	「タイムマネジメント・コーチング」重要ポイントの再確認
第14回	これまでの1回～13回までの総まとめと後期試験準備講義
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	行本明説
タイトル	仕事ができる人のタイムマネジメント
出版社	東洋経済新報社

#### 参考書

著者名	佐藤 英郎
タイトル	プレーイングマネジャーの為のコーチング術
出版社	アーク出版